



チーム りきごう

学校通信

3号 力合小学校

校長 岡崎 雄治

1号でも書いたとおり学校のホームページには今年度の学校経営方針をUPしています。私が子どもたちの前で話をしたり、こうやって保護者の皆様や地域の皆様に通信等を出させていただいたりする際は、その学校経営方針で掲げた項目について話題を取り上げるようにしています。一度取り扱った項目には印をつけていますが、まだまだ印がついていない項目はたくさんあります。今後もいろいろな機会を捉えて発信してまいります。

かくれんぼができない！

梅雨明けが待ち遠しい毎日ですが、タイトルの「かくれんぼができない!」とは、雨で外で遊べないということではありません。思えば、もう何年も子どもたちとかくれんぼをして遊んでいないのです。今でもたまに昼休みなど運動場で子どもたちと遊んでいますが、まず「かくれんぼしましょう」という言葉は聞こえてきません。

実際にかくれんぼをして遊んでいる子どもたちも久しく見えないような気がします。そんなときにある本を見つけました。その名も『「かくれんぼ」ができない子どもたち(杉本厚夫著:ミネルヴァ書房)』です。読んでみると、「かくれんぼは子どもたちにとって怖い遊びなのではないか、SNSやスマホ等で常に他者とのつながりを求める現代社会では見つからないようにするという事は、自分の居場所を失うことにつながっているのではないか」といったちょっとドキッとするような指摘に違和感を感じつつも、どこかでそうかもという思いもこみ上げてきます。

夕暮れに、「もういいだろう」と思って身を表すと、広場には誰もいないなんていう状況で、妙に勝ち誇ったような達成感を感じていた少年時代。(かくれていると妙にトイレに行きたくなったりしませんでしたか)次の日、登校すると見つからなかったことを自慢することが許されていた空気。子どもの遊びも時代とともに変わっていくのでしょうね。振り返れば、わが子も「すぐに見つけて」と言わんばかりの隠れ方で、一番に見つけられると喜んでいました。

さて、昼休みに本気で隠れでもしたら「校長先生、ちゃんとしてください。」なんて次の日に子どもたちから叱られるのかもしれませんが。みなさんはどうですか、子どもさんとかくれんぼ最近されましたか?

「種をまくほうが大切です。」

伝説の国語教師、大村はま先生は「子どもをほめることは大切だが、いいことがあったらほめようというのではなく、ほめることが出てくるように、ほめる種をまいていくことを考えたい」と仰いました。(私は大学が国語科なのですが、一度だけ直接お話をうかがったことがあります。)

今年度の経営方針の目指す学校像で「ことば」を大切にしていきたいと掲げています。豊かな言葉というものは人の心を温かくしたり、お互いの理解を深めたりしてくれます。一方、鋭い刃となるのも言葉の怖さです。子どもたちの語彙を増やし、いろいろな言い回しができるようにしていくと発言や対話の内容も変わるでしょう。そこで校長室からもう少しつことばを大切にするための種まきを・・・。

種まき第1弾は前回書いた星野富弘さんでした。現在第2弾の「かたつむり」チャレンジ実施中です。あまり子どもたちには広まっていないようで、もっと子どもたちに伝わるように私自身の発信力を鍛えねばと痛感させられています。(それでもチャレンジしてくれる子どもたちありがとう。)

ここで一つ、問題です。「ゆあーんゆよーんゆやゆよん」さて、このオノマトペ(擬音語、擬態語)は何を表現していると思いますか。

この言葉を初めて知って以来数十年、その言葉が表しているものを目にするたびにこの秀逸な表現が頭に浮かびます。この言葉でしか表せないのではなどと思うほどです。(ヒント:これは、「サーカス」という中原中也の詩に出てきます。)子どもたちに紹介したい豊かな言葉ってたくさんありますよね。

そろそろ種まき第3弾に移ろうかと考えています。学校にお越しの際は、お時間があれば校長室前廊下に掲示していますのでご覧ください。

7月の 保健目標 熱中症を予防しよう

生活目標 無言そうじをがんばろう